

<外部仕上チェックシートNO.1>

※該当項目は●、該当無しは-としています。

- 図面の訂正内容
- 各種試験費
- LGSがJIS規格品か否かの確認
- 下地と表層の関係(別紙チェック表)
- 外壁面断熱と外壁仕上面積の関係(別紙チェック表)
- 雑、手摺類のガラスはガラス工事に別計上
(共で雑工事に計上する業者もあるので注意)
- 天井伏図と仕上表の食い違いを確認したか
- 壁・天井LGSの補強(鉄骨等)の有無、範囲、仕様
- 軒天裏のGW敷込みの有無と計上の確認

工事名称: _____

- スリット部のシーリング
- 屋根面積率 _____ m²/建m² 1.00に近くなっているか
- 防水立上り _____ (m²) / 笠木・水切全体計 = _____ (m) ←防水立上り高さに近くなるか
=

- 笠木・水切全体計とパラペット平均高さが近似値か パラペット平均高さ _____ (m)
- コーナーモルタル等 _____ (m) 別紙合計長さとの近似値か

- 伸縮目地 _____ m/防水m² 伸縮目地m/防水m²≒0.7~1.0前後か
上記対象押えコン面積 _____ m²

- 外壁面積率 _____ m²/延m²
※右記の表を参考とする

延床面積(m ²)	平屋	3F建	5F建	10F建	20F建
500m ²	0.6~1.0	1.0~1.3	1.1~1.6		
1,000m ²	0.5~0.8	0.7~0.9	0.8~1.1	1.0~1.3	
3,000m ²	0.3~0.45	0.4~0.65	0.5~0.75	0.6~0.8	0.8~1.0
5,000m ²	0.2~0.35	0.3~0.55	0.4~0.6	0.5~0.7	0.7~0.9
10,000m ²	0.15~0.3	0.2~0.5	0.25~0.55	0.35~0.55	0.4~0.6
20,000m ²	0.1~0.2	0.15~0.25	0.2~0.3	0.25~0.35	0.3~0.4

- 基本面積(別紙より) _____ m²
- 外壁仕上+建具 _____ m²/基本面積
- 外壁仕上率(0.70~0.80) _____ m²/基本面積
- 外部開口 _____ m²/基本面積
- 外壁面断熱面積 _____ m²
- 別紙表層と下地の関係はよいか
- タイル役物/建具シール _____ / _____ = _____
(断熱面積) (外壁仕上面積)

- 外壁仕上面積と断熱面積との面積率は良いか _____ (m²) / _____ (m²) = _____
※柱側面・梁下端を含む

コメント

建築面積: _____ m²

延床面積: _____ m²

<内部仕上チェックシートNO.1>

工事名称: _____

※該当項目は●、該当無しは-としています。

- 図面の訂正内容
- 各種試験費
- LGSがJIS規格品か否かの確認
- 下地と表層の関係(別紙チェック表)
- 外壁面耐火ボード折返しの有無
- 壁・天井LGSの補強(鉄骨等)の有無、範囲、仕様
- スライディングウォール上部吊金物(建具メーカー仕様の場合もある)
- 土間カッター目地(大規模な工場、倉庫は注意)
- ALC面のボード下地の確認(LGS下地とする。GL工法は基本不可)
- カーテン、ブラインド類の工事区分
- 雑、金物等か所ものの倍数確認
(基準階で倍数が多くなる場所は再度チェックする)
- 防煙垂壁の有無
- 添壁補強(鉄骨等)の有無、範囲、仕様
- 天井裏のGW敷込みの有無と計上の確認

- 床面積/延㎡
- 壁面積/延㎡
- 壁基本面積
- (壁面積+建具)/基本面積
- 壁仕上/巾木
- 天井面積/延㎡

- 巾木計
- 廻縁計

- UB下地
- 畳下地
- 二重床数量

<input type="checkbox"/>	㎡/㎡	※0.9~0.95前後を基準とする
<input type="checkbox"/>	㎡/㎡	※1.0~1.5を基準とする(マンションは2.5前後)
<input type="checkbox"/>	①㎡	(全室周長×平均CH)
<input type="checkbox"/>	㎡/①n	※1.0に近ければOK
<input type="checkbox"/>	㎡/㎡	≒ <input type="text"/> (平均CH)
<input type="checkbox"/>	㎡/㎡	※床面積との関係はよいか

内訳計上長さ + 参考長さ(内訳未計上分)						
<input type="checkbox"/>	m	=	<input type="text"/>	+	<input type="text"/>	※巾木と廻縁の関係はよいか
<input type="checkbox"/>	m	=	<input type="text"/>	+	<input type="text"/>	巾木<廻縁

<input type="checkbox"/>	㎡	UBか所数	<input type="text"/>	<input type="text"/>	※2.5程度(USは0.9程度)
<input type="checkbox"/>	㎡	畳枚数	<input type="text"/>	<input type="text"/>	※1.5程度(半畳は0.5枚)
<input type="checkbox"/>	㎡	二重床概数	<input type="text"/>	<input type="text"/>	※1.0に近ければOK

コメント

建築面積: _____ m2

延床面積: _____ m2

<間仕切チェックシートNO.1>

※該当項目は●、該当無しは-としています。

耐火間仕切シーリング長さ(別紙チェック表)	
(両面ボート張りは両面数量、片面ボート張りは片面数量が計上されているか)	
耐火間仕切面積と内装で計上した耐火面の仕上面積との比較(別紙チェック表)	
一般LGS間仕切はスラブ止め、天井止めの確認	
各間仕切量、高さのバランス(別紙チェック表)	
全体間仕切量の延㎡当り歩掛(別紙チェック表)	
LGS補強(鉄骨等)の有無、範囲、仕様	
ALC間仕切・押出成形板間仕切・コンクリートブロック間仕切の範囲再確認	
ALC間仕切概略数量(㎡)	
押出成形板概略数量(㎡)	
コンクリートブロック概略数量(㎡)	

※下記間仕切数量は提出内訳書より計上する事

間仕切種類	間仕切数量(㎡)	(%)	㎡/延㎡	間仕切長さ(m)	間仕切高さ(m)
RC壁					
コンクリートブロック					
ALC板					
押出成形セメント板					
木軸					
一般LGS					
耐火間仕切					
遮音間仕切					
その他					
小計					
内建面積					
建具外開口面積					
合計					

★間仕切数量参考歩掛

建物用途	㎡/延㎡
マンション	1.1~1.5
学校	0.4~0.6
事務所	0.3~0.6
倉庫・屋体等	0.1~0.3

※建物用途により上記歩掛と比較、確認する事

工事名称:

耐火間仕切面積と内装で計上した耐火面の仕上面積との比較

(耐火間仕切ー耐火間仕切長さ×天井フロア平均高さ)×2÷耐火面表層仕上(内装工事耐火面仕上より)

注)フロア高さは物件毎に要調整

$$(\text{)} \times 2 = \text{ } \div \text{ }$$

耐火(両面ボート)シーリング	m	㎡	m/耐火(両面ボート)㎡
耐火(片面ボート)シーリング	m	㎡	m/耐火(片面ボート)㎡
遮音シーリング	m	㎡	m/遮音㎡

※シーリング長さの歩掛値が概ね下記範囲ならOK

	階高3.5m程度	階高6.0m程度
片面ボート張り仕様(吉野 Sウォール等)	0.5~0.8程度	0.25~0.4程度
両面ボート張り仕様	1.3~2.0程度	0.65~1.0程度

注1)耐火間仕切同士の取合シーリングは面積単価に含まれるので計上しない

注2)階高が通常より大幅に高い場合や低い場合はシーリングの数量はそれ程変動しないが
間仕切量は変動が大きいため要確認

※(間仕切高さ/平均階高)が下記係数範囲内に入る事

$$\left(\frac{\text{ }}{\text{ }} \right) = \text{ } \text{ m}$$

平均梁成下 平均スラブ厚下

係数値範囲= $\text{ } \sim \text{ } \text{ m}$

平均梁成(m)	平均スラブ厚(m)

※係数値算出式

梁下係数値=(平均階高-平均梁成)/平均階高

スラブ下係数値=(平均階高-平均スラブ厚)/平均階高

※下記の範囲ならOK

$$\text{ } \rightarrow \text{ } \sim \text{ } \text{ m}$$

コメント

延床面積: m²

平均階高: m

<外構チェックシート>

※該当項目は●、該当無しは-としています。

敷地面積、建築面積と舗床面積の関係

舗装	仕様	内訳数量	植栽	仕様	内訳数量
1			1		
2			2		
3			3		
4			4		
5			計		
6			その他	仕様	内訳数量
7			1		
8			2		
9			3		
10			4		
計			計		
建築面積			合計		
拾い計+建築面積			敷地面積		

敷地延周長とフェンス、擁壁、縁石等の関係

図面の縮尺(外構は縮尺間違いで数量が大きく変動する事が多いので注意)

駐車場ライン引きの長さ(駐車スペース概寸 W2.5m × D5.0m)

凍上抑制層の有無

現況GLの確認

外部-外構の取合い確認

工事名称: _____

コメント

<構造チェックシートNO.1> RC造

工事名称: _____

※該当項目は●、該当無しは-としています。

『土工関連』

- 根切と埋戻しの率(土間の場合70%程度、ピットの場合30%程度)
- 埋戻土、盛土の確認(A種～D種)
- 埋戻土が搬入土の場合、残土処分量が根切土量になっているか
- 土間下ビニールシートの立下り分(300程度)の記載はないか
- 地盤改良の工法(通常掘削はしない)

根切	埋戻	残土	埋戻/根切	地業面積
m3/建m ²	m3/建m ²	m3/建m ²	%	m ² /建m ²

『躯体関連』

- コンクリート当たり、延床面積当たりの歩掛(建物用途に適した歩掛か) <別表参照>
- 各部材毎のコンクリート当たりの歩掛チェック(各構造体に適した歩掛か)
- コンクリート、型枠、鉄筋の部位別階別集計のバランスチェック
- 開口部ワイヤーメッシュの有無
- 圧接の仕様、項目チェック、か所数チェック(内訳上で行う事)
- 圧接か所数の鉄筋ton当り歩掛
- 太物鉄筋径の圧接、又は機械式継手
- 太物鉄筋径の定着金物、又は特殊な工法
- 型枠の代わりにフラットデッキを使用している箇所はないか

躯体 延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ² /m3	t/m3	か所/t

コンクリート	基礎		cm/1F床面積
	地下		cm/地下床面積
	地上		cm/地上床面積
型枠	基礎		m2/1F床面積
	地下		m2/地下床面積
	地上		m2/地上床面積
鉄筋	基礎		kg/1F床面積
	地下		kg/地下床面積
	地上		kg/地上床面積

<別表> 建物用途別躯体歩掛(過去実績値)

	延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
	コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
	m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ² /m3	t/m3	か所/t
マンション(6F 3500m ²)	0.8	4.5	115	5.7	140	11~
マンション(15F 7000m ²)	0.9	4.2	150	4.8	170	
病院(11F 20000m ²)	0.5	4.2	110	5.8	130	
事務所(7F 2700m ²)	0.7	4.3	100	5.9	110	

コメント

建築面積: _____ m²

延床面積: _____ m²

<構造チェックシートNO.2> RC造

工事名称: _____

根切量		m3	計	基礎	地下	地上	
埋戻量		m3	CON量				m3
残土量		m3	型枠量				m ²
地業面積		m ²	鉄筋量				t
			圧接量				か所

拾い書、集計の全数量と内訳計上の全数量との比較

	システム数量	集計数量			内訳数量
		集計数量	申送り	計	
コンクリート					
型枠					
鉄筋					
圧接					

1階床面積		m ²
地下階床面積		m ²

<構造チェックシートNO.1> SRG造

工事名称: _____

※該当項目は●、該当無しは-としています。

『土工関連』

- 根切と埋戻しの率(土間の場合70%程度、ピットの場合30%程度)
- 埋戻土、盛土の確認(A種～D種)
- 埋戻土が搬入土の場合、残土処分量が根切土量になっているか
- 土間下ビニールシートの立下り分(300程度)の記載はないか
- 地盤改良の工法(通常掘削はしない)

根切	埋戻	残土	埋戻/根切	地業面積
m3/建m ²	m3/建m ²	m3/建m ²	%	m ² /建m ²

『鉄骨関連』

- 型枠の代わりにフラットデッキを使用している箇所はないか
- フェローデッキ等(鉄筋付デッキ)の現場配筋の数量確認(10kg/m²程度)←ロスなし
- 鉄骨数量の確認(建物用途に適した歩掛か) <別表2参照>

掛面積当り	鉄骨当り	
	鉄骨	溶接
t/延m ²	m/t	m ² /t

『躯体関連』

- コンクリート当たり、延床面積当たりの歩掛(建物用途に適した歩掛か) <別表1参照>
- 各部材毎のコンクリート当たりの歩掛チェック(各構造体に適した歩掛か)
- コンクリート、型枠、鉄筋の部位別階別集計のバランスチェック
- 開口部ワイヤーメッシュの有無
- 圧接の仕様、項目チェック、か所数チェック(内訳上で行う事)
- 圧接か所数の鉄筋ton当り歩掛
- 太物鉄筋径の圧接、又は機械式継手
- 太物鉄筋径の定着金物、又は特殊な工法
- 柱仕口部HOOP形状の確認(現場溶接又は溶接閉鎖HOOPなど)

躯体 延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ³ /m3	t/m3	か所/t

コンクリート	基礎	cm/1F床面積
	地下	cm/地下床面積
	地上	cm/地上床面積
型枠	基礎	m2/1F床面積
	地下	m2/地下床面積
	地上	m2/地上床面積
鉄筋	基礎	kg/1F床面積
	地下	kg/地下床面積
	地上	kg/地上床面積

<別表1> 建物用途別躯体歩掛(過去実績値)

	延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
	コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
	m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ³ /m3	t/m3	か所/t
マンション(6F 3500m ²)	0.8	4.5	115	5.7	140	11~
マンション(15F 7000m ²)	0.9	4.2	150	4.8	170	
病院(11F 20000m ²)	0.5	4.2	110	5.8	130	
事務所(7F 2700m ²)	0.7	4.3	100	5.9	110	

<別表2> 建物用途別鉄骨参考歩掛

	延床面積当り
マンション(5F以下)	150
マンション(10F以上)	180
病院(5F以下)	180

コメント

建築面積: _____ m²

延床面積: _____ m²

<構造チェックシートNO.2> SRC造

工事名称: _____

根切量		m3
埋戻量		m3
残土量		m3
地業面積		m ²

	計	基礎	地下	地上	
CON量					m3
型枠量					m ²
鉄筋量					t
圧接量					か所

鉄骨		t
鉄骨掛面積		m ²
溶接		m
鉄骨塗装		m ²

拾い書、集計の全数量と内訳計上の全数量との比較

	システム数量	集計数量			内訳数量
		集計数量	申送り	計	
コンクリート					
型枠					
鉄筋					
圧接					

1階床面積		m ²
地下階床面積		m ²

<構造チェックシートNO.1> S造

工事名称: _____

※該当項目は●、該当無しは-としています。

『土工関連』

- 根切と埋戻しの率(土間の場合70%程度、ピットの場合30%程度)
- 埋戻土、盛土の確認(A種～D種)
- 埋戻土が搬入土の場合、残土処分量が根切土量になっているか
- 土間下ビニールシートの立下り分(300程度)の記載はないか
- 地盤改良の工法(通常掘削はしない)

根切	埋戻	残土	埋戻/根切	地業面積
m3/建m ²	m3/建m ²	m3/建m ²	%	m ² /建m ²

『鉄骨関連』

- フェロデッキ等(鉄筋付デッキ)の現場配筋の数量確認(10kg/m²程度)←ロスなし
- 鉄骨数量の確認(建物用途に適した歩掛か) <別表2参照>

掛面積当り	鉄骨当り	
	鉄骨	溶接
t/延m ²	m/t	m ² /t

『躯体関連』

- コンクリート当たり、延床面積当たりの歩掛(建物用途に適した歩掛か) <別表1参照>
- 各部材毎のコンクリート当たりの歩掛チェック(各構造体に適した歩掛か)
- コンクリート、型枠、鉄筋の部位別階別集計のバランスチェック
- 単純支持の耐火鉄筋の有無
- デッキスラブを入力する際に、構造基準の設定を確認し、リストを作成したか
- デッキ数量の概略数量を算出又は延床面積と電算数量との比較チェック
- 圧接の仕様、項目チェック、か所数チェック(内訳上で行う事)
- 圧接か所数の鉄筋ton当り歩掛

<別表1> 建物用途別躯体歩掛(過去実績値)

	延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
	コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
	m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ² /m3	t/m3	か所/t
倉庫(2F 5800m ²)	0.4	1.1	50	2.9	90	3~

躯体 延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ² /m3	t/m3	か所/t

<別表2> 建物用途別鉄骨参考歩掛

	延床面積当り
事務所(5F)	120
事務所(10F)	150
倉庫(平屋)	100

コンクリート	基礎	cm/1F床面積
	地下	cm/地下床面積
型枠	地上	cm/地上床面積
	基礎	m2/1F床面積
鉄筋	地下	m2/地下床面積
	地上	m2/地上床面積
鉄筋	基礎	kg/1F床面積
	地下	kg/地下床面積
	地上	kg/地上床面積

コメント

建築面積: _____ m² 延床面積: _____ m²

<構造チェックシートNO.2> S造

工事名称: _____

根切量		m3
埋戻量		m3
残土量		m3
地業面積		m ²

	計	基礎	地下	地上	
CON量					m3
型枠量					m ²
鉄筋量					t
圧接量					か所

鉄骨		t
鉄骨掛面積		m ²
溶接		m
鉄骨塗装		m ²

拾い書、集計の全数量と内訳計上の全数量との比較

	システム数量	集計数量			内訳数量
		集計数量	申送り	計	
コンクリート					
型枠					
鉄筋					
圧接					

1階床面積		m ²
地下階床面積		m ²

<構造チェックシートNO.1> 木造

工事名称: _____

※該当項目は●、該当無しは-としています。

『土工関連』

- 根切と埋戻しの率(土間の場合70%程度、ピットの場合30%程度)
- 埋戻土、盛土の確認(A種～D種)
- 埋戻土が搬入土の場合、残土処分量が根切土量になっているか
- 土間下ビニールシートの立下り分(300程度)の記載はないか
- 地盤改良の工法(通常掘削はしない)

根切	埋戻	残土	埋戻/根切	地業面積
m3/建m ²	m3/建m ²	m3/建m ²	%	m ² /建m ²

『躯体関連』

- コンクリート当たり、延床面積当たりの歩掛(建物用途に適した歩掛か) <別表1参照>
- 各部位毎のコンクリート当たりの歩掛チェック(各構造体に適した歩掛か)
- コンクリート、型枠、鉄筋の部位別階別集計のバランスチェック

躯体 延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
m3/延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ² /m3	t/m3	か所/t

コンクリート	基礎	cm/1F床面積
	地下	
型枠	基礎	m2/1F床面積
	地下	
鉄筋	基礎	kg/1F床面積
	地下	

『木材』

- 外部、内部仕上よりの木材を計上したか。
- 各部位毎の延床面積当りの歩掛(建物規模に適した歩掛か) <別表2参照>
- 違う樹種(集成材、ヒキなど)や甲種・乙種などの使い分けを使用している部位はないか
- 特殊な金物は使用していないか
- 家具の木製棚は、雑工事が木工事か確認したか。
- 製材の区分の確認をしたか。
 - 板類(厚さが7.5cm未満で幅が厚さの4倍のもの)
 - ・板(厚さが3cm未満で幅が12cm以上のもの)
 - ・小幅板(厚さが3cm未満で幅が12cm未満のもの)
 - ・斜面板(幅が6cm以上で横断面が台形のもの)
 - ・厚板(厚さが3cm以上のもの)
 - ひき割類(厚さが7.5cm未満で幅が厚さの4倍未満のもの)
 - ・正割(横断面が正方形のもの)
 - ・平割(横断面が長方形のもの)
 - ひき角類(厚さ及び幅が7.5cm以上のもの)
 - ・正角(横断面が正方形のもの)
 - ・平角(横断面が長方形のもの)

木材 延床面積当り				
床組	軸組	天井下地	屋根	造作類
m3/延m ²	m3/延m ²	m3/延m ²	m3/延m ²	m3/延m ²

コメント

建築面積: _____ m²

延床面積: _____ m²

<構造チェックシートNO.2> 木造

工事名称: _____

<別表1> 建物用途別躯体歩掛(過去実績値)

	延床面積当り			コンクリート当り		鉄筋当り
	コンクリート	型枠	鉄筋	型枠	鉄筋	圧接
	m ³ /延m ²	m ² /延m ²	t/延m ²	m ² /m ³	t/m ³	か所/t
平屋住宅、公住	0.4	2.2	45	6.5	50	-
2F住宅、公住	0.25	1.2	20	3.2	33	-

※上記歩掛値は1F床が土間コン且つ布基礎の場合を示す

※木造の場合 様々な条件で歩掛が変動するので注意

例)1F床 土間コン又は木床組、ピット有無、基礎形式 布基礎又は独立基礎 など

<別表2> 建物用途別木材歩掛(統計値)

	床組	軸組	天井下地	屋根	その他
	m ³ /延m ²	m ³ /延m ²	m ³ /延m ²	m ³ /延m ²	m ³ /延m ²
公住	0.017	0.087	0.015	0.057	0.020

※上記歩掛値は1F床が木床組の場合を示す

			計	基礎	地下	
根切量		m ³				m ³
埋戻量		m ³				m ²
残土量		m ³				t
地業面積		m ²				か所

拾い書、集計の全数量と内訳計上の全数量との比較

	システム数量	集計数量			内訳数量
		集計数量	申送り	計	
コンクリート					
型枠					
鉄筋					
圧接					

1階床面積	m ²
地下階床面積	m ²

木材

床組	m ³
軸組	m ³
天井下地	m ³
屋根	m ³
造作類	m ³